



Carole Osborne 著
形井秀一、早乙女智子 監訳
定価 4200 円＋税
B5 判／医道の日本社／2014 年

評者 大石時子 東京医療保健大学教授

妊産褥婦の変化と特徴をふまえた マッサージセラピー

本書は、米国の認定マッサージセラピストが妊娠、分娩、産後の女性のためのマッサージセラピーについて書いた専門書の翻訳である。妊産褥婦の解剖・生理を専門的に考慮したマッサージの本が、ついに出了！

妊婦さんへのマッサージは、その安全性の面から、今まで敬遠されがちであった。助産師も妊婦さんに対しては専門的にケア技術として確立してこなかった。しかし、最近では町中でも、たまたに「妊婦さんも O.K.」というような施術店をみかけることがある。

本書は、妊婦マッサージの安全性に重点をおいた技術を真正面から教えてくれ、実践的なテクニックだけでなく、留意点やガイドラインについても妊娠期ごとに解説されている。そしてハイリ

スクの妊婦さんへのマッサージまで追求している。

また、本書の素晴らしさは、単にマッサージの技術を伝授するだけではなく、マッサージが妊婦さんを精神的に支える面を強調していることである。

タッチ、スキンセラピーを「手当て」と呼び、人の手のケアが体だけでなく、いかに女性の心を癒し、力づけるのかについて言及している。本書には、女性の心と体の変化を知り尽くして寄り添おうとするマッサージセラピストの気迫が感じられる。

「女性にとって人生で最も感動的な経験である出産の実質はスキンシップという面が薄れ、もはや女性中心のイベントではなくなりつつある」「私と共にこの傾向を変え…(略)」とマッサージセラピストの著者が主張するのを読んで、助産師と同じ想いで、共に現状を変えていける専門家の仲間がいることに改めて気づかされ、心強く感じる。

助産師も負けてはいられない。本書からたくさん技術や心を学び、妊産婦さんの日々のケアにぜひ生かしたいものである。「あなたならどうする」という施術者側に対する議論の問いかけコラムがあり、現実の臨床場面ではさまざまな状況や考え方があることへの配慮であるとも受け取れる。助産師だったら、本書の技術や考え方を、助産師流、私流によりよいものとして、発展させてはどうだろうか？

本書が、産婦人科医師と鍼灸マッサージ師の資格をもつ東洋医学の専門家によって翻訳されたことも興味深い。監訳者の 1 人、早乙女医師が書いているように「医師にも、『西洋医学以外』を排除することなく、いいお産に向けたチーム医療の必須処置として」理解していただきたい 1 冊である。

①